



GOT機能サンプル デバイスモニタ・テスト機能 説明書

三菱電機株式会社





目次

1. デバイスマニタ・テスト機能の特長
2. 動作環境
3. サンプル画面操作方法
4. 作画設定方法
5. カスタマイズ時の変更方法



1. デバイスマニタ・テスト機能の特長

- ビットデバイス・ワードデバイスの値を、GOT上で視覚的にモニタできます。
- ビットデバイス・ワードデバイスの値を、GOT上で容易に変更できます。
- 予め登録することにより、デバイスコメントを表示することができます。
- デバイス値の変更時、確認画面を表示することにより、誤操作を防止できます。
- 多数のデバイスのモニタ及び変更を、1画面で行えるため、メモリの節約につながります。
※通常、「(ビット:約0.8MB/画面 or ワード:約0.7MB/画面) × 画面数」必要のところ、1画面分のメモリで動作可能です。

ビットデバイスの場合

デバイスモニタ機能(ビット)SAMPLE

モニタ対象デバイス選択 各スイッチのデバイスへジャンプします

X000	X001	X002	X003	X004	X005	X006	X007	X008	X009	X00A	X00B	X00C	X00D	X00E	X00F
X010	X011	X012	X013	X014	X015	X016	X017	X018	X019	X01A	X01B	X01C	X01D	X01E	X01F

次の20件を表示します

X0000	X0000のコメント	X0010	X0010のコメント
X0001	X0001のコメント	X0011	X0011のコメント
X0002	X0002のコメント	X0012	X0012のコメント
X0003	X0003のコメント	X0013	X0013のコメント
X0004	X0004のコメント	X0014	X0014のコメント
X0005	X0005のコメント	X0015	X0015のコメント
X0006	X0006のコメント	X0016	X0016のコメント
X0007	X0007のコメント	X0017	X0017のコメント
X0008	X0008のコメント	X0018	X0018のコメント
X0009	X0009のコメント	X0019	X0019のコメント
X000A	X000Aのコメント	X001A	X001Aのコメント
X000B	X000Bのコメント	X001B	X001Bのコメント
X000C	X000Cのコメント	X001C	X001Cのコメント
X000D	X000Dのコメント	X001D	X001Dのコメント
X000E	X000Eのコメント	X001E	X001Eのコメント
X000F	X000Fのコメント	X001F	X001Fのコメント

確認画面が表示されることにより、誤操作を防止します。

デバイス「X004」の値を、ONしますか?

OK キャンセル

ワードデバイスの場合

デバイスモニタ機能(ワード)SAMPLE

モニタ対象デバイス選択 各スイッチのデバイスへジャンプします

D000	D001	D002	D003	D004	D005	D006	D007	D008	D009
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

次の20件を表示します

D0000	40	D0000のコメント	D0010	3	D0010のコメント
D0001	0	D0001のコメント	D0011	10	D0011のコメント
D0002	456	D0002のコメント	D0012	520	D0012のコメント
D0003	0	D0003のコメント	D0013	0	D0013のコメント
D0004	32	D0004のコメント	D0014	0	D0014のコメント
D0005	0	D0005のコメント	D0015	63	D0015のコメント
D0006	1	D0006のコメント	D0016	0	D0016のコメント
D0007	523	D0007のコメント	D0017	0	D0017のコメント
D0008	0	D0008のコメント	D0018	21	D0018のコメント
D0009	11	D0009のコメント	D0019	1	D0019のコメント

キーウィンドウで、入力した値をデバイスに設定します。

INPUT ← 32767

7	8	9	AC	▲	▼
4	5	6	Del	◀	▶
1	2	3	+/-		
0	.	Enter		◀	▶

2. 動作環境

1. 本サンプルを動作させる上でGOT側で必要な機材

- ・GT15 VGAタイプ

2. インストールが必要なOS

OS	項目	容量(kbyte)	備考
なし	—	—	—

3. GT Designer2のバージョン

本サンプルは、Version 2.87Rで動作確認しています。

4. 注意事項

- 本説明書は、GT Designer2 Version2.87R版の内容について記載しており、別のバージョンをご使用の場合は、設定内容や画面イメージが異なる場合がございます。
- 本サンプルでは、CPU直接接続で確認しておりますが、必要に応じて他の接続形態にご変更下さい。
各接続形態の詳細は、「GOT1000シリーズ 接続マニュアル」をご参照下さい。
- 本説明書では、細かい設定・注意事項等は記載しておりません。
各種オブジェクトの詳しい説明については、GT Designer2 Version2 画面設計マニュアルの3章「共通設定」、4章「オブジェクト設定の前に」、6章「ランプ、スイッチ」、7章「数値、文字表示」などをご参照下さい。



3. サンプル画面操作方法

1. 事前準備

当サンプル画面を使用する際、必要に応じてデバイスコメントを変更します。コメント変更方法を以下に記載します。

- ①メニューバー「共通設定→コメント→コメント」を選択し、変更するコメントグループを選択します。もしくは、ワークスペースの「コメント」をクリックし、該当コメントグループをダブルクリックします。

当サンプルでは、以下のコメントグループを選択します。

- ・ビットデバイスの場合 ⇒ 「2.Xデバイスコメント(ビット)」
- ・ワードデバイスの場合 ⇒ 「3.Dデバイスコメント(ワード)」

- ②表示されたコメント一覧で、各デバイスコメントを入力します。
先頭デバイスが「コメントNo.=1」に対応しており、以降のデバイスは「コメントNo.=2,3,..」と対応しています。

No. 2 Xデバイスコメント(ビット) コメント一覧		高品位文字						
列No.		文字色	反転	フリック	12ドットゴシック	12ドット明朝	16ドットゴシック	16ドット明朝
コメントNo.								
1	X0000のコメント	<input type="checkbox"/>	しない	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	X0001のコメント	<input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>
3	X0002のコメント	<input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>
4	X0003のコメント	<input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>
5	X0004のコメント	<input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>
6	X0005のコメント	<input type="checkbox"/>	しない	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	X0006のコメント	<input type="checkbox"/>	しない	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	X0007のコメント	<input type="checkbox"/>	しない	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

表示させたいデバイスコメントを入力します。

- ③コメント一覧画面を閉じる。

登録するコメントのデータ量が多い場合、以下の方法が便利です。

- ①Excel等でCSVファイルを作成し、インポートします。
※詳細については、[GT Designer2 Version2 画面設計マニュアルの4.1.11「テキスト/CSVファイルに保存したコメントを編集する」](#)をご参照下さい。
- ②GX Developerのコメントをコピーし、コメント一覧にペーストします。

2. 画面構成

以下に画面構成を記載します。

2. 1. デバイスマニタ機能(ビットデバイス)

タッチすることにより、表記されているデバイスをモニタする画面に移動します。

タッチすることにより、前後32点のデバイスをモニタする画面に移動します。

タッチすることにより、ワードデバイスモニタ画面に移動します。

デバイス値 (ON/OFF) 参照・変更ができます

ワードデバイス

モニターデバイス選択 各スイッチのデバイスヘジャンプします

X0000 ~ X001F X0100 ~ X011F X0200 ~ X021F X0300 ~ X031F X03FF

次の32件を表示します

X0000	ON	X0000のコメント	X0010	ON	X0010のコメント
X0001	ON	X0001のコメント	X0011	ON	X0011のコメント
X0002	OFF	X0002のコメント	X0012	OFF	X0012のコメント
X0003	OFF	X0003のコメント	X0013	OFF	X0013のコメント
X0004	OFF	X0004のコメント	X0014	OFF	X0014のコメント
X0005	OFF	X0005のコメント	X0015	OFF	X0015のコメント
X0006	OFF	X0006のコメント	X0016	ON	X0016のコメント
X0007	OFF	X0007のコメント	X0017	OFF	X0017のコメント
X0008	OFF	X0008のコメント	X0018	ON	X0018のコメント
X0009	OFF	X0009のコメント	X0019	OFF	X0019のコメント
X000A	OFF	X000Aのコメント	X001A	OFF	X001Aのコメント
X000B	OFF	X000Bのコメント	X001B	OFF	X001Bのコメント
X000C	OFF	X000Cのコメント	X001C	OFF	X001Cのコメント
X000D	OFF	X000Dのコメント	X001D	OFF	X001Dのコメント
X000E	OFF	X000Eのコメント	X001E	OFF	X001Eのコメント
X000F	OFF	X000Fのコメント	X001F	OFF	X001Fのコメント

各デバイス値(ON/OFF)を表示します。
タッチすることによりON/OFFの切り換えが可能です。

モニタするデバイスを表示します。

登録したデバイスコメントを表示します。



2. 2. デバイスマニタ機能(ワードデバイス)

タッチすることにより、表記されているデバイスをモニタする画面に移動します。

タッチすることにより前後20点のデバイスをモニタする画面に移動します。

タッチすることにより、ビットデバイスモニタ画面に移動します。

デバイスモニタ機能(ワード) デバイス値の参照・変更ができます

ビットデバイス

モニタ対象デバイス選択 各スイッチのデバイスヘジャンプします

D0000 ~ D0019 D0200 ~ D0219 D0400 ~ D0419 D0600 ~ D0619 D0800 ~ D0819 ~ D1000

前ページ 次ページ
次の20件を表示します

D0000	50	D0000のコメント	D0010	11	D0010のコメント
D0001	30	D0001のコメント	D0011		D0011のコメント
D0002	0	D0002のコメント	D0012		D0012のコメント
D0003	21	D0003のコメント	D0013	0	D0013のコメント
D0004	85	D0004のコメント	D0014	55	D0014のコメント
D0005	10	D0005のコメント	D0015	0	D0015のコメント
D0006	0	D0006のコメント	D0016	33	D0016のコメント
D0007	3	D0007のコメント	D0017	11	D0017のコメント
D0008	21	D0008のコメント	D0018	0	D0018のコメント
D0009	522	D0009のコメント	D0019	21	D0019のコメント

各デバイス値を表示します。タッチすることによりデバイス値の変更が可能です。

モニタするデバイスを表示します。

登録したデバイスコメントを表示します。

3. 操作方法

以下に操作方法を記載します。

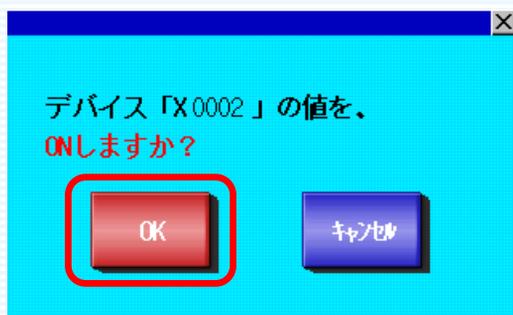
3. 1. デバイスマニタ機能(ビットデバイス)

①変更するデバイスのランプをタッチします。

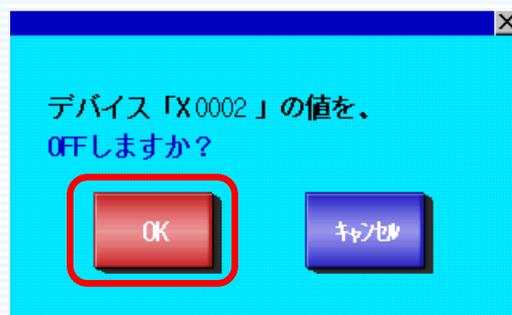


②下記の確認画面が表示されるので、変更内容を確認し、『OK』ボタンをタッチします。

(デバイス値がOFFの場合)

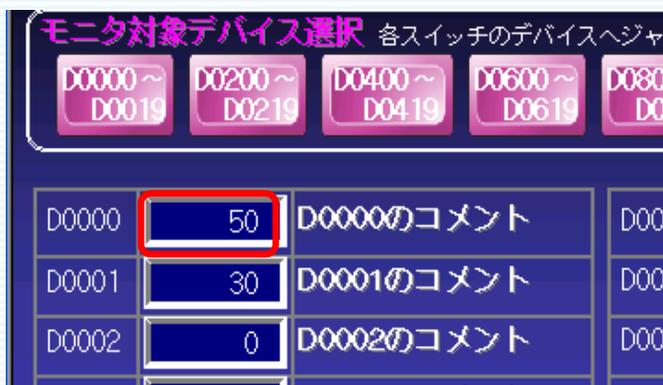


(デバイス値がONの場合)



3. 2. デバイスモニタ機能(ワードデバイス)

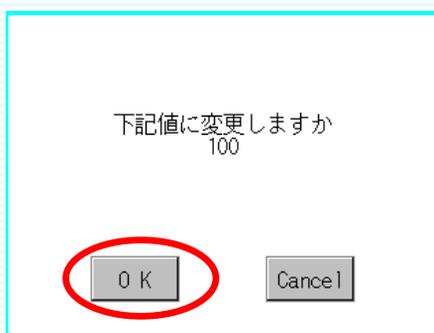
①変更するデバイス値表示部分をタッチします。



②下記のキーウィンドウが表示されるので、数値入力を行い、『Enter』ボタンをタッチします。



③下記確認画面が表示されるので、変更内容を確認し、『OK』ボタンをタッチします。



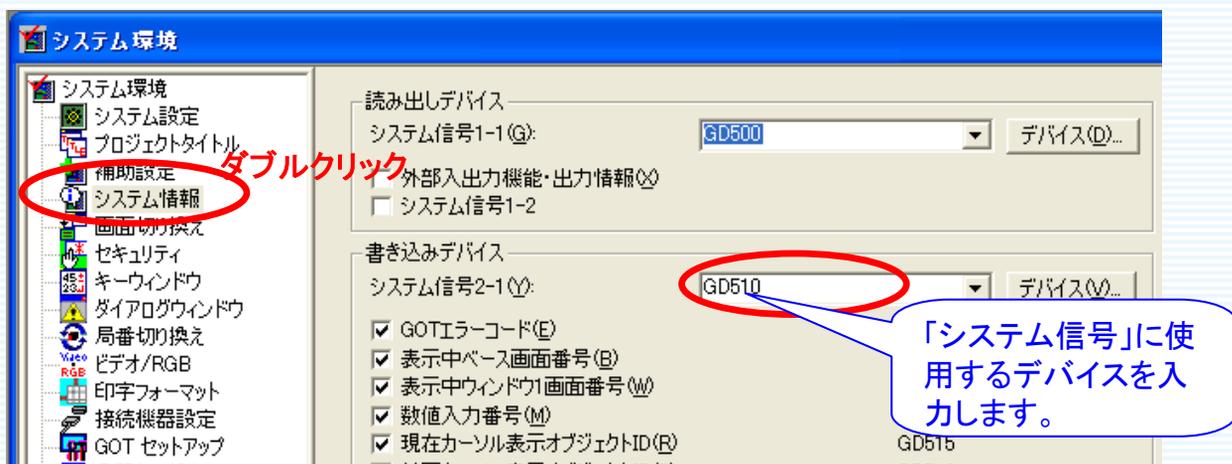
4. 作画設定方法

1. 環境設定

以下に環境設定の手順を記載します。

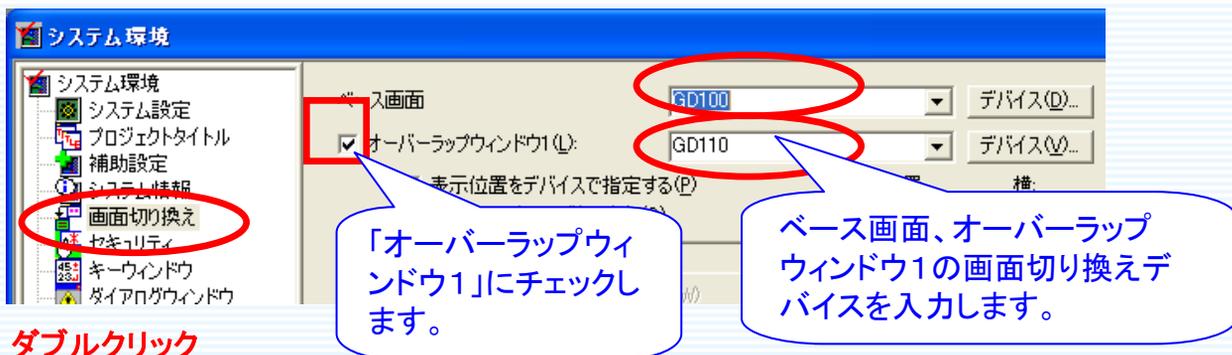
①メニューバー「共通設定→システム環境」を選択します。

②表示された画面の左部分の「システム情報」をダブルクリックし、下記のように設定を行います。



※「システム信号2-1」の詳細については、「GT Designer2 Version2 画面設計マニュアル」の3.6「システム情報を設定する」を参照して下さい。

③次に、画面の左部分の「画面切り換え」をダブルクリックし、下記のように設定を行います。



2. 使用デバイス一覧

本サンプルで使用しているデバイス一覧は、下記の通りとなります。
必要に応じて、ご変更下さい。

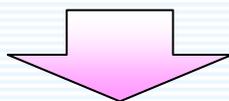
使用しているデバイス		用途
ビットデバイス	GD510.b11	キーウインドウ表示判別用
ワードデバイス	GD100	画面切換えデバイス(ベース画面)
	GD110	画面切換えデバイス(オーバーラップウインドウ1)
	GD200	ページ先頭デバイスNo.格納用(ビット)
	GD210	タッチしたデバイスNo.格納用(ビット)
	GD220	デバイス名コメント表示用
	GD300	ページ先頭デバイスNo.格納用(ワード)

3. デバイスマニタ画面作画の手順

デバイスマニタ画面作画の手順は、以下の通りとなります。
詳しい設定方法を次ページより記載します。

【ビット/ワードデバイス共通】

- ①対象デバイス名をコメントグループに登録
- ②デバイスコメントをコメントグループに登録
- ③デバイスNo.切り換えスイッチ(ページ先頭デバイス指定)を設定
- ④デバイスNo.切り換えスイッチ(個別スクロール)を設定
- ⑤デバイス名、デバイスNo.を設定
- ⑥デバイスコメントの設定



【ビットデバイスの場合】

- ⑦a.ビットランプの設定
- ⑧a.変更確認ウィンドウの作成
- ⑨a.マルチアクションスイッチの設定

【ワードデバイスの場合】

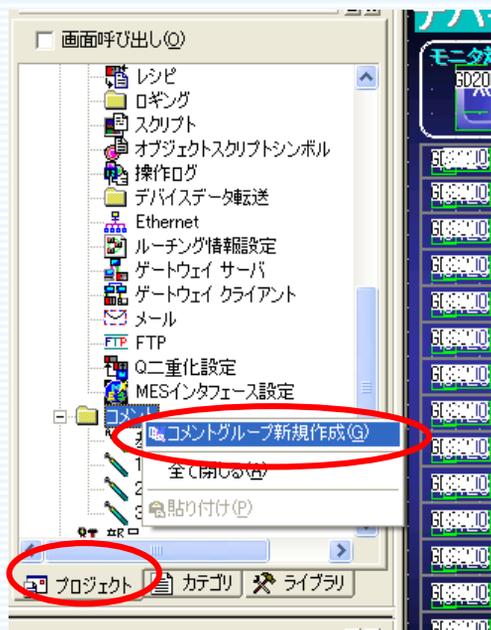
- ⑦b.数値入力の設定

4. デバイスモニタ画面設定方法

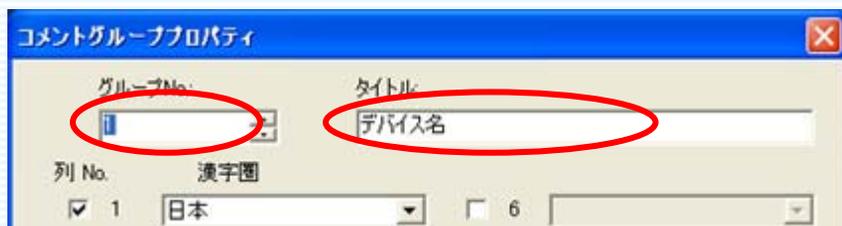
4.1. ビットワードデバイス共通

①対象デバイス名をコメントグループに登録します。

- ①-1. ワークスペースの「プロジェクト」タブを選択し、「コメント」で右クリックします。
『コメントグループ新規作成』を選択します。



- ①-2 「コメントグループNo.」「タイトル名」を入力し、モニタするデバイス名を登録します。



No. 1 デバイス名 コメント一覧						
列No.	コメントNo.	コメント	文字色	反転	ブリンク	12ドットゴシック
1	1	X		しない	なし	<input type="checkbox"/>
2	2	D		しない	なし	<input type="checkbox"/>

- ② デバイスコメントをコメントグループに登録します。
②-1. 「①-1」と同様に、コメントグループを新規作成し、デバイスコメントを「コメントNo.=1」より順に入力します。

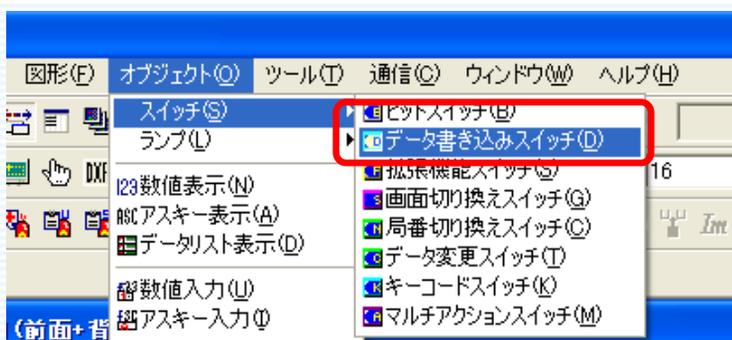
列No.	コメントNo.	文字色	背景色	フォント	サイズ	位置	その他
	1	X0000のコメント	しない	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	X0001のコメント	しない	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	X0002のコメント	しない	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	4	X0003のコメント	しない	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	5	X0004のコメント	しない	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

先頭デバイスのコメントから順に入力します。
(先頭デバイス⇒コメントNo.=1
2番目のデバイス⇒コメントNo.2・・・)

- ③ デバイスNo.切り換えボタン(ページ先頭デバイス指定)を設定します。



- ③-1. メニューバー「オブジェクト→スイッチ→データ書き込みスイッチ」を選択し、配置したい場所をクリックします。

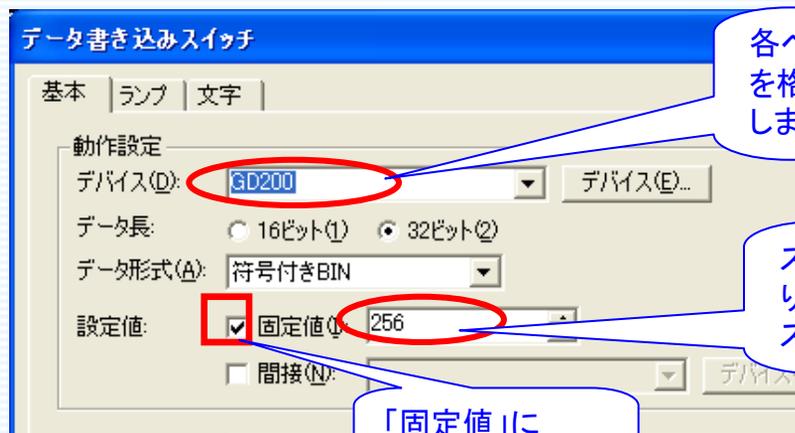




③-2. 設置したスイッチをダブルクリックし、下記のように設定します。

※下記の設定以外にも、必要に応じ「ランプ」等の設定を行って下さい。

(基本タブ)

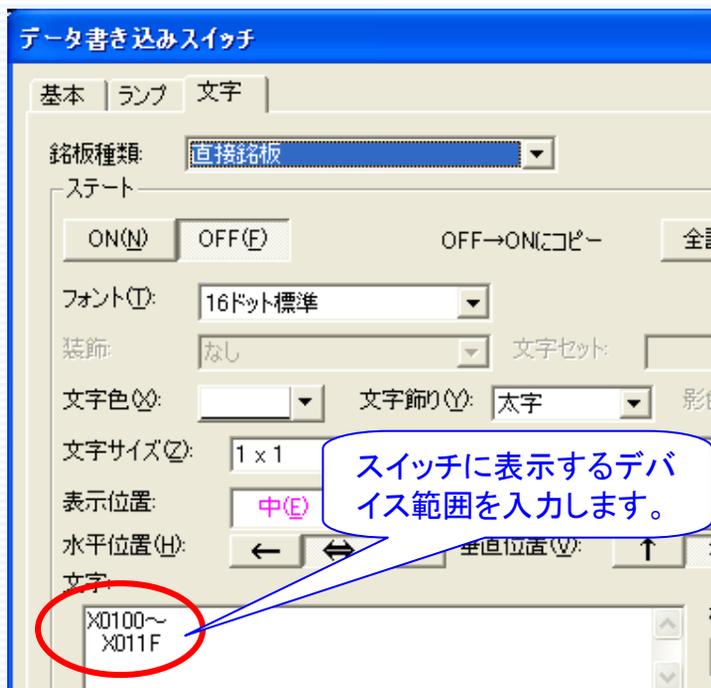


各ページの先頭デバイスNo.を格納するデバイスを設定します。

スイッチをタッチすることにより表示させたい、先頭デバイスNo.を記入します。

「固定値」にチェックします。

(文字タブ)



スイッチに表示するデバイス範囲を入力します。



(動作条件タブ)

「動作条件」にチェックをします。

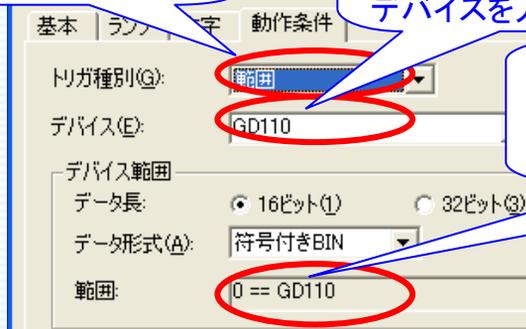


(動作条件タブ)を選択し、下記のように設定します。

◎ビットデバイスの場合

「範囲」を選択します。

『(1)環境設定』で指定した、ウィンドウ切り換えデバイスを入力します。



「範囲」ボタンを押下し、下記のように設定します。
範囲:「0==(ウィンドウ切り換えデバイス)」

【ポイント】

「(ウィンドウ切り換えデバイスの値)=0」と条件設定することにより、**確認画面が表示されていない場合のみ**動作します。

◎ワードデバイスの場合

「OFF中」を選択します。



『(1)環境設定』で指定した(「システム信号」デバイス)+「.b11」を入力します。

【ポイント】

「(システム信号2-1)OFF中」と条件設定することにより、**キーウィンドウが表示されていない場合のみ**動作します。

※「システム信号2-1」の詳細については、「GT Designer2 Version2 画面設計マニュアル」の3.6「システム情報を設定する」を参照して下さい。

④ デバイスNo.切り換えボタン(個別スクロール)を設定します。



④-1. 「③-1」と同様に、ツールバー「オブジェクト→スイッチ→データ書き込みスイッチ」を選択し、設置したい場所をクリックします。

④-2. 設置したスイッチをダブルクリックし、下記のように設定します。

※下記の設定以外にも、必要に応じ「ランプ」等の設定を行って下さい。

(基本タブ)

各ページの先頭デバイスNo.を格納するデバイスを設定します。

スイッチをタッチすることにより、前後させたいデバイス数を入力します。

- ・前ページ:「-」+(1ページの表示数)
- ・次ページ:(1ページの表示数)

「固定値」、「間接」にチェックします。

各ページの先頭デバイスNo.を格納するデバイスを設定します。

【ポイント】

各ページ先頭デバイスNo.を1ページ表示数だけ増減させることにより、次ページにスクロールさせます。

(動作設定タブ)

「動作設定」にチェックをして、下記のように設定します。

機能一覧
 オプション 動作設定 動作条件
 オブジェクト名称: _____ OK キャンセル



データ書き込みスイッチ

基本 | ランプ | 文字 | 動作設定

動作(A) 書き込みデバイス/切り換え先種別

1	ワードSET GD200	GD200 - 32
---	--------------	------------

以下の値を入力します。
 (前ページスイッチの場合)⇒「0」
 (次ページスイッチの場合)⇒
 最終ページ先頭デバイスNo.

キー入力対象ユーザID(Y): 0

初期値条件(V)

条件値(O): 0 リセット値: 0

【ポイント】
 初期値条件を設定することにより、範囲外のデバイスをモニタしないように設定します。

(動作条件タブ)

「動作条件」にチェックを入れ、下記のように設定します。

◎ビットデバイスの場合

「範囲」を選択します。

『(1)環境設定』で指定した、ウィンドウ切り換えデバイスを入力します。

「範囲」ボタンを押下し、下記のように設定します。
「0==(ウィンドウ切り換えデバイス)」

【ポイント】

「(ウィンドウ切り換えデバイスの値)=0」と条件設定することにより、**確認画面が表示されていない場合のみ**動作します。

◎ワードデバイスの場合

「OFF中」を選択します。

『(1)環境設定』で指定した「システム信号2-1」デバイス+「.b11」を入力します。

【ポイント】

「(システム信号2-1)OFF中」と条件設定することにより、**キーウィンドウが表示されていない場合のみ**動作します。

※「システム信号2-1」の詳細については、「GT Designer2 Version2 画面設計マニュアル」の3.6「システム情報を設定する」を参照して下さい。

⑤ デバイス名、デバイスNo.を設定します。

⑤-1. デバイス名のコメント表示を設定します。

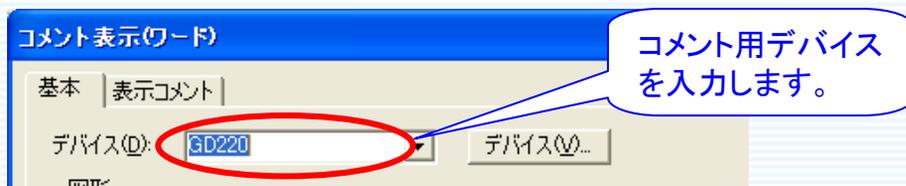


メニューバー「オブジェクト→コメント表示→ワードコメント」を選択し、設置したい場所をクリックします。

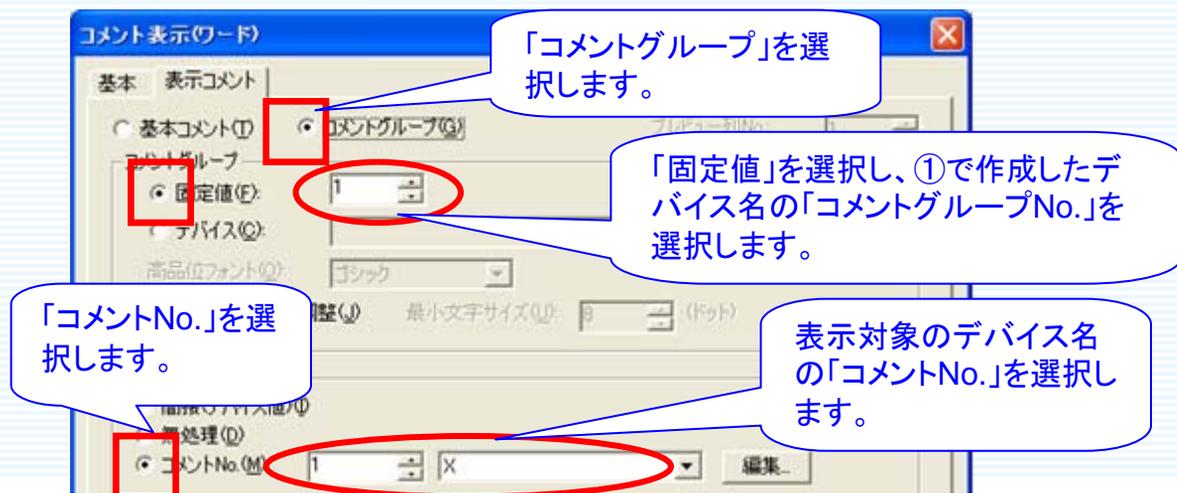


⑤-2. 下記のように設定します。

※ 下記の設定以外にも、必要に応じ「フォント」等の設定を行って下さい。
(基本タブ)



(表示コメントタブ)





⑤-3. デバイスNo.の数値表示を配置し、下記のように設定します。



※下記の設定以外にも、必要に応じ「フォント」等の設定を行って下さい。

(基本タブ)

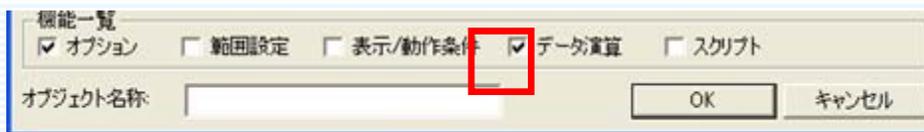
各ページの先頭デバイスNo.を格納するデバイスを設定します。

「16進数」を選択します。

【ポイント】
「データ形式」を「10/16進数」切り換えることにより、デバイスNo.の10/16進数表示を変更することが可能です。

(データ演算タブ)

「データ演算」にチェックをし、下記のように設定します。



例) X0000～を表示範囲とする場合 (1ページ32デバイス)
「+0」「+1」・・・「+31」
というように、加算値が異なる32個の数値表示を配置します。

「\$\$ (デバイス値)」を選択します。

先頭デバイスから順に「0,1,2,3・・・」を設定します。

【ポイント】
データ演算を行うことにより、先頭デバイスから順のデバイスNo.を表示させます。

⑥ デバイスコメントを設定します。

X0004のコメント

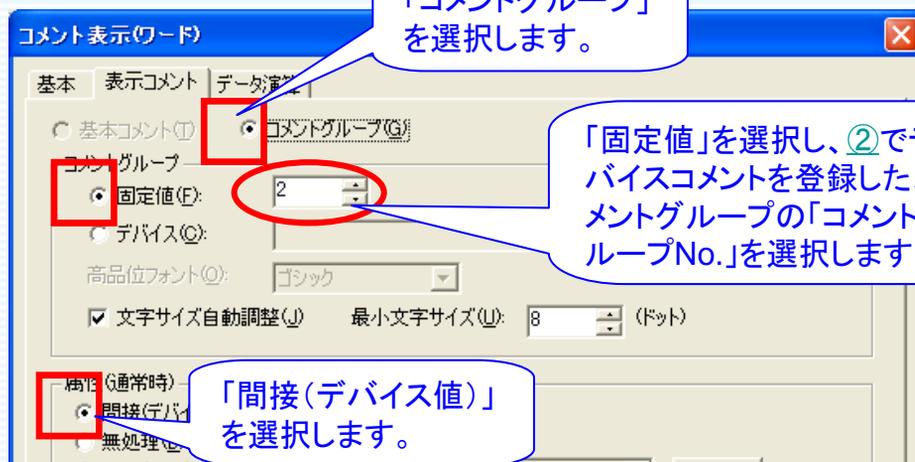
「⑤-1.」と同様に、コメント表示を配置し、下記のように設定します。

※下記の設定以外にも、必要に応じ「図形、フォント」等の設定を行って下さい。

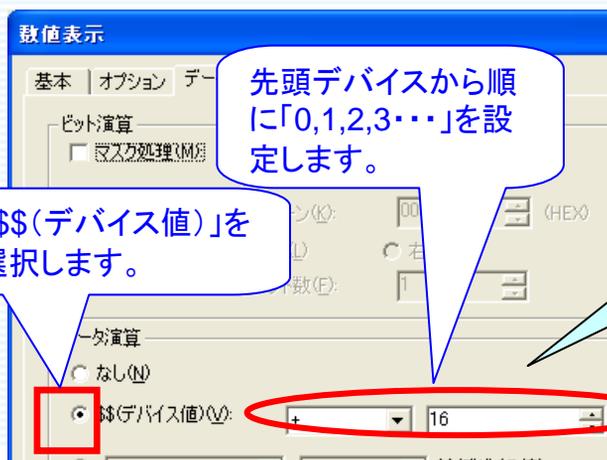
(基本タブ)



(コメント表示タブ)



(データ演算タブ)



例) X0000~を表示範囲とする場合
(1ページ32デバイス)
「+0」「+1」...「+31」
というように、加算値が異なる
32個のコメント表示を配置します。

【ポイント】

データ演算を行うことにより、ページ先頭デバイスから順に、デバイスコメントを表示させます。

4. 2. ビットデバイスの場合

⑦a. ビットランプの設定をします。



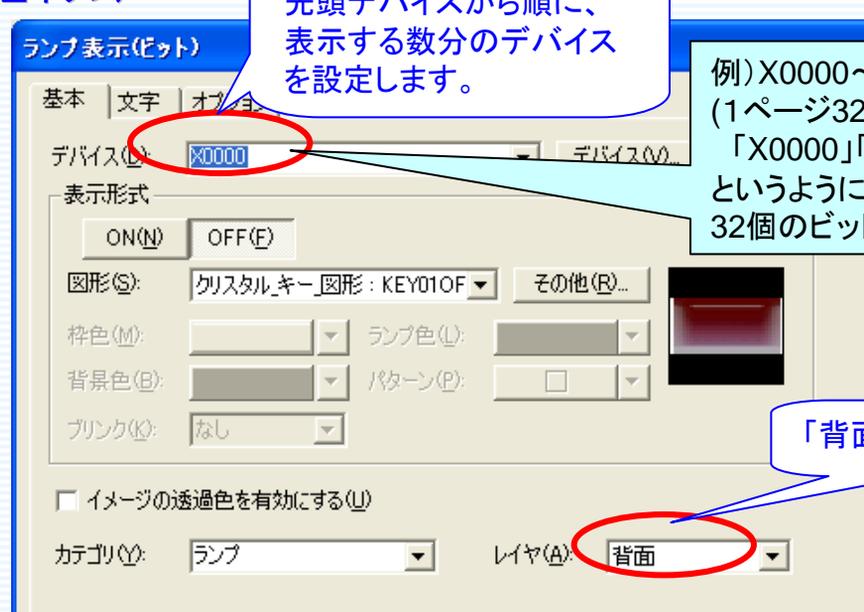
⑦a-1. メニューバー「オブジェクト→ランプ→ビットランプ」を選択し、設置したい場所をクリックします。



⑦a-2. 下記のように設定します。

※下記の設定以外にも、必要に応じ「表示形式」等の設定を行って下さい。

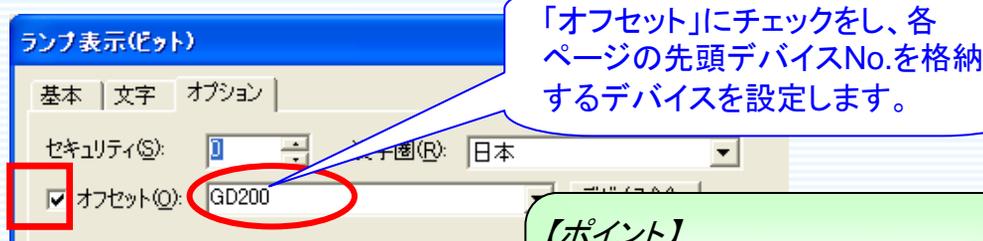
(基本タブ)



例) X0000～を表示範囲とする場合
(1ページ32デバイス)
「X0000」「X0001」……「X001F」
というように、デバイス値が異なる
32個のビットランプを配置します。

(オプションタブ)

「オプション」にチェックを入れ、下記のように設定します。

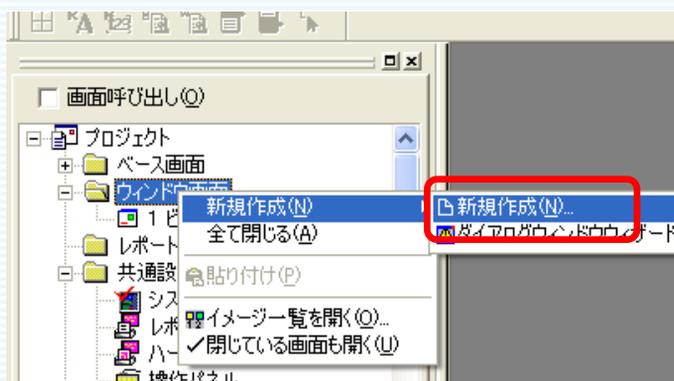


【ポイント】
設定したデバイスを、「先頭デバイスNo.」でオフセットすることによって、各ページの先頭以降のデバイスを表示させます。

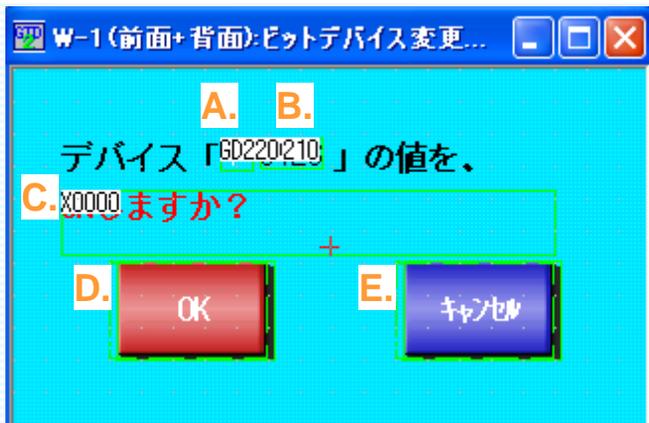
⑧a. 変更確認ウィンドウを作成します。

⑧a-1. ワークスペースの「プロジェクト」タブを選択し、「ウィンドウ画面」で右クリックします。「新規作成→新規作成」を選択します。

※必要に応じ「背景色」等の設定を行って下さい。



⑧a-2. 下記のように、オブジェクトを配置します。



各オブジェクトの詳細な設定については、以降で記載します。

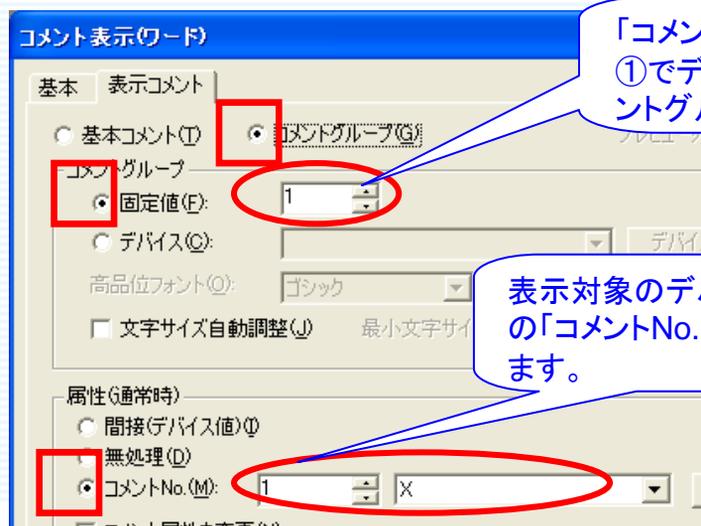
A. コメント表示(デバイス名表示用 上図A.)

※下記の設定以外にも、必要に応じ「フォント」等の設定を行って下さい。

(基本タブ)



(表示コメントタブ)



B.数値表示(デバイスNo.表示用 前ページ図B.)

※下記の設定以外にも、必要に応じ「フォント」等の設定を行って下さい。

(基本タブ)

数値表示

基本 | オプション

種類: 数値表示(P) 数値入力

デバイス

デバイス(D): GD210 デバイス(D)...

データ長: 16ビット(L) 32ビット(Q)

表示形式

データ形式(F): 16進数 数値色(L)

タッチしたデバイスNo.
格納用のデバイスを入
力します。

【ポイント】

「タッチしたデバイスNo.格納用のデバイ
ス」を指定することにより、変更対象デバ
イスNo.を確認メッセージに表示させます。

C.コメント表示(確認メッセージ表示用 前ページ図C.)

※下記の設定以外にも、必要に応じ「フォント、コメント属性」等の設定を行って下さい。

(基本タブ)

コメント表示(コメント)

基本 | 表示コメント | オプション

デバイス(D): X0000 デバイス(D)...

図形

先頭のデバイスを入力
します。





(表示コメントタブ)

コメント表示(ビット)

基本 | 表示コメント | オプション

基本コメント(B) コメントグループ(G)

コメントグループ

固定値(F): 1

デバイス(D):

文字サイズ自動調整(A) 最小文字サイズ(S):

ON(N) OFF(E) OFF→ON(コピー)

コメントNo.(C): 1 ONしますか?

基本コメントを選択します。

「OFF」をクリックし、「OFF→ON」時の確認メッセージを選択します。

「ON」をクリックし、「ON→OFF」時の確認メッセージを選択します。

ON(N) OFF(E) ON→OFF(コピー)

コメントNo.(C): 2 OFFしますか?

直接コメント(D)

【ポイント】
対象デバイスの値(ON/OFF)により、確認メッセージを切り換えます。

(オプションタブ)

コメント表示(ビット)

基本 | 表示コメント

セキュリティ(S): 1 漢字圏(C): 日本

オフセット(O): GD210

換行モード: 経過(P): XOR(B):

オフセットにチェックし、タッチしたデバイス格納用のデバイスを入力します。

【ポイント】
先頭デバイスを「タッチしたデバイスNo.」でオフセットすることにより、タッチしたデバイスに対応した確認メッセージを表示します。

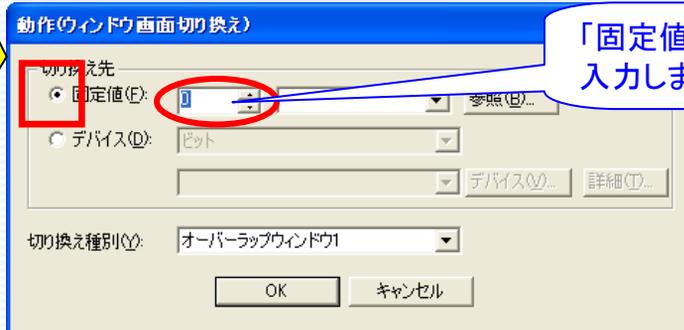
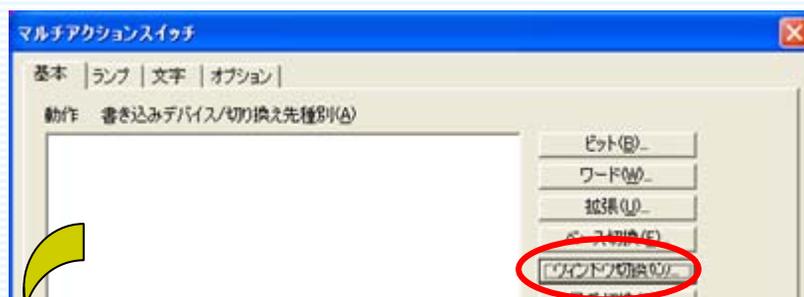
D. マルチアクションスイッチ(「OK」ボタン ⑧a-2.の図D.)

※下記の設定以外にも、必要に応じ「ランプ、文字」等の設定を行って下さい。

(基本タブ)

◎ウィンドウ切り換え

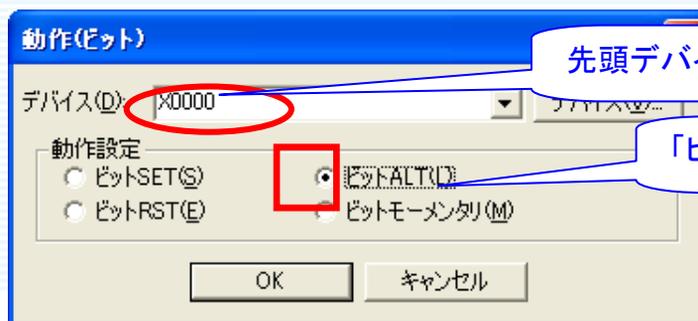
「ウィンドウ切り換え」ボタンを押下し、下記のように設定します。



「固定値」を選択し、「0」を入力します。

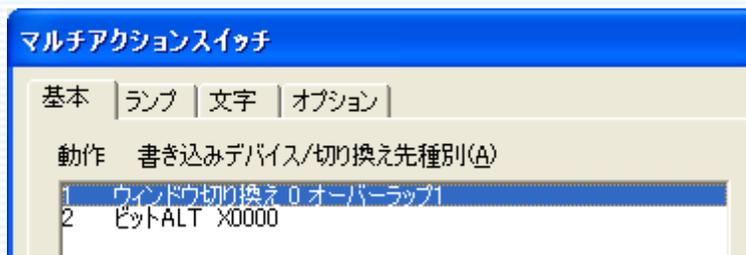
◎ビットALT

「ビット」ボタンを押下し、下記のように設定します。

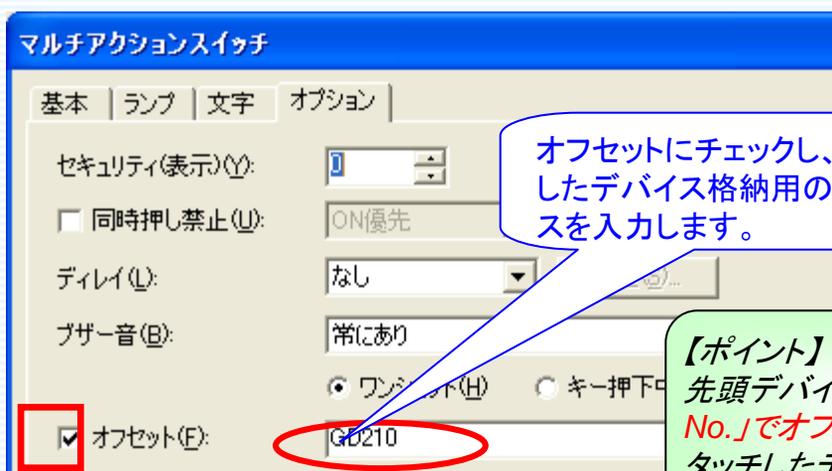


先頭デバイスを入力します。

「ビットALT」を選択します。



(オプションタブ)



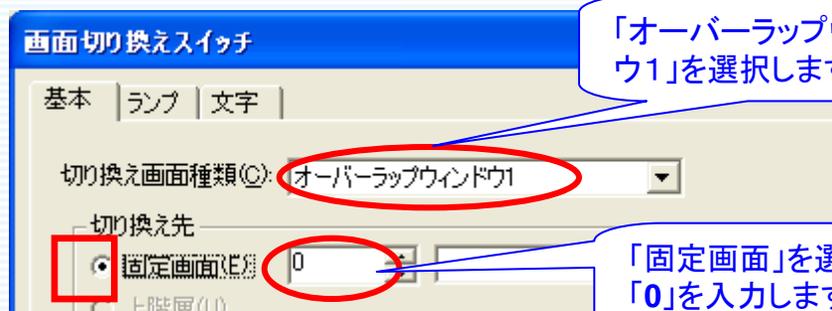
オフセットにチェックし、タッチしたデバイス格納用のデバイスを入力します。

【ポイント】
先頭デバイスを「タッチしたデバイス No.」でオフセットすることにより、タッチしたデバイスをALTします。

E.画面切り換えスイッチ(「キャンセル」ボタン ⑧a-2.の図E.)

※下記の設定以外にも、必要に応じ「ランプ、文字」等の設定を行って下さい。

(基本タブ)

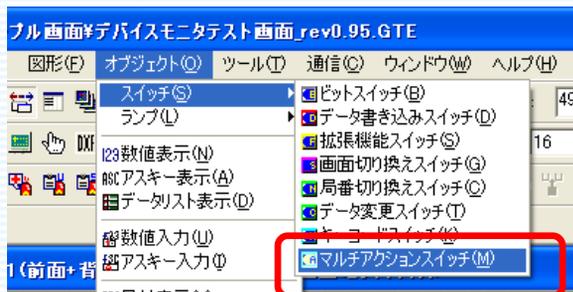


「オーバーラップウィンドウ1」を選択します。

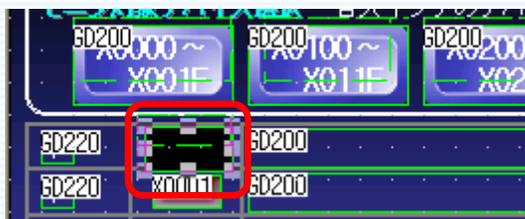
「固定画面」を選択し、「0」を入力します。

⑨a. マルチアクションスイッチを設定します。

⑨a-1. メニューバーの「オブジェクト→スイッチ→マルチアクションスイッチ」を選択します。



⑨a-2. 「⑦a.」で作成したビットランプと重なるように、配置します。



⑨a-3. 下記のように設定します。

(基本タブ)

◎ワード

「ワード」ボタンを押下し、下記のように設定します。

マルチアクションスイッチ

本 | ランプ | 文字

動作 | 書き込みデバイス/切り換え先種別(A)

ビット(B)

ワード(W)

拡張(U)...

ページ切換え(F)

タッチしたデバイス格納用のデバイスを入力します。

先頭デバイスから順に「0,1,2,3...」を設定します。

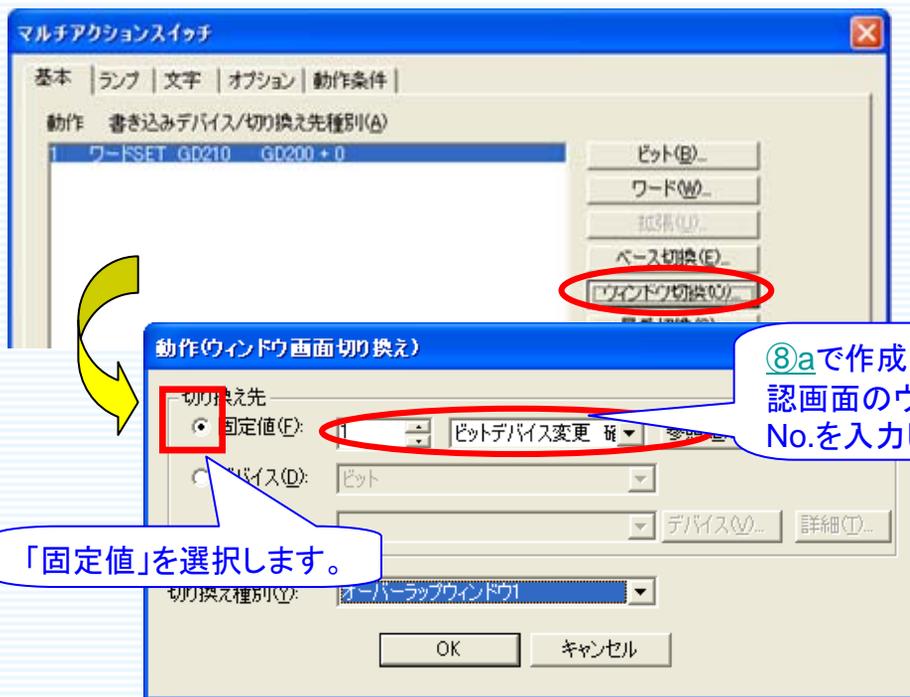
例) D0000～を表示範囲とする場合 (1ページ20デバイス)
固定値: 「0」「1」...「19」というように、設定値(固定値)の異なる20個のビットランプを配置します。

各ページの先頭デバイスNo.を格納するデバイスを設定します。

【ポイント】
「タッチしたデバイス格納用のデバイス」に、「(各ページ先頭デバイス) + (各ページ先頭から何番目)」を設定することにより、タッチしたデバイスを記憶します。

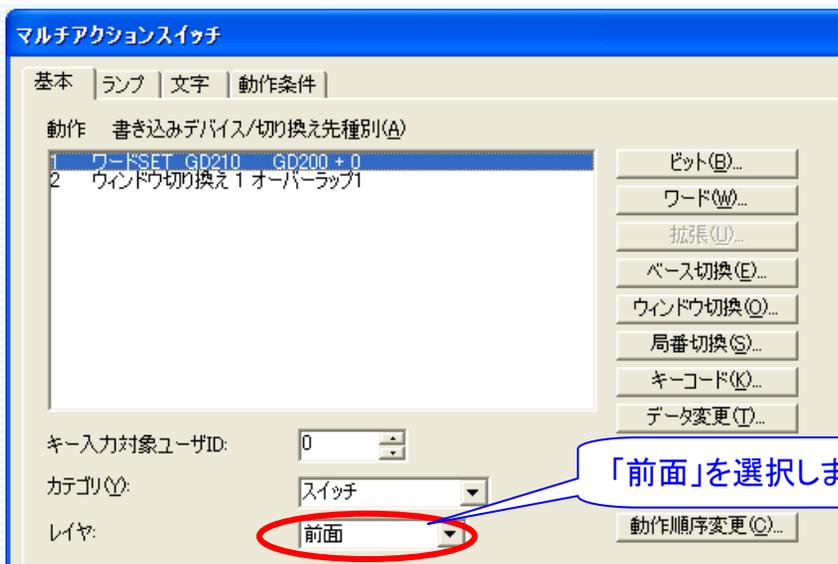
◎ウィンドウ切り換え

「ウィンドウ切り換え」ボタンを押下し、下記のように設定します。

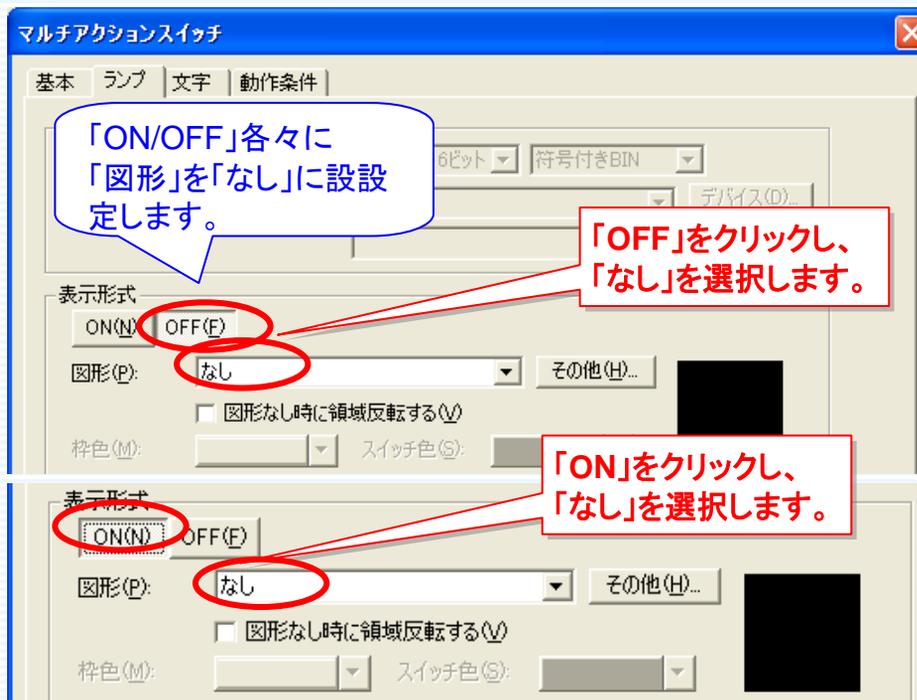


◎レイヤ

(基本タブ)に戻り、以下のように設定します。

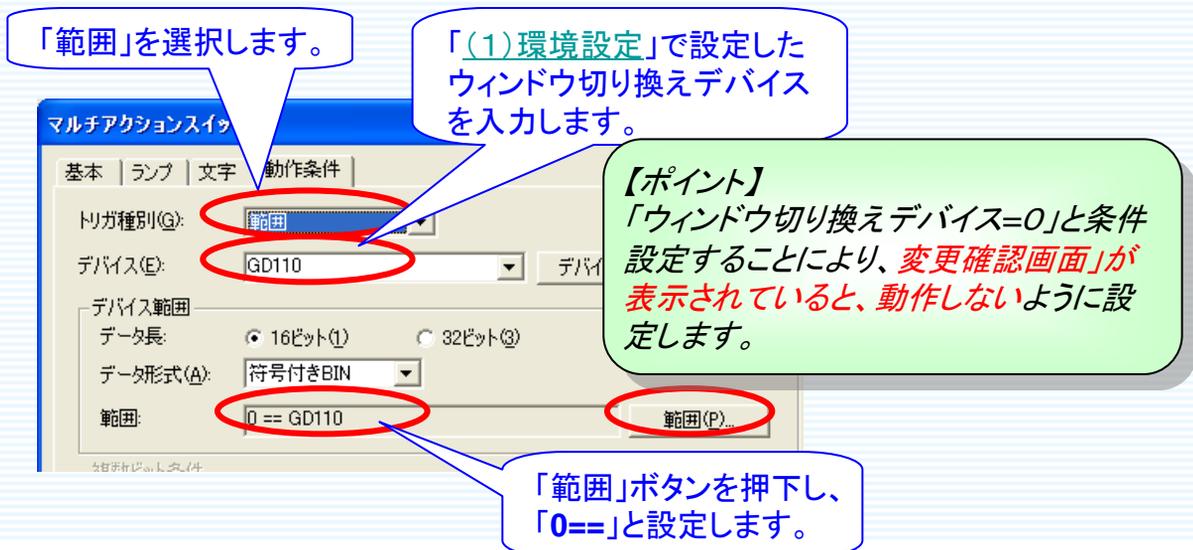


(ランプタブ)



(動作条件タブ)

「動作条件」にチェックし、下記のように設定します。

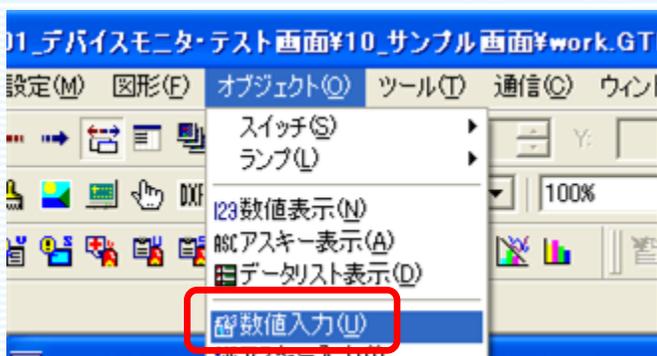


4. 3. ワードデバイスの場合

⑦b. 数値入力の設定をします。



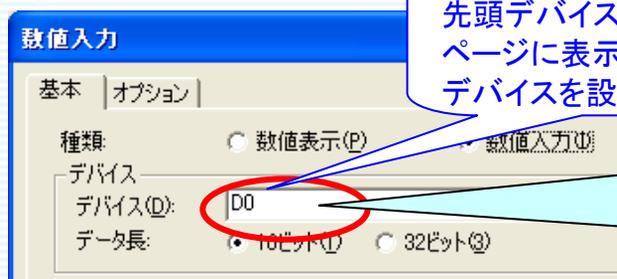
⑦b-1. メニューバー「オブジェクト→数値入力」を選択し、設置したい場所をクリックします。



⑦b-2. 下記のように設定します。

※下記の設定以外にも、必要に応じ「フォント、図形」等の設定を行って下さい。

(基本タブ)



先頭デバイスから順に、1ページに表示する数分のデバイスを設定します。

例) D0～を表示範囲とする場合 (1ページ20デバイス)
デバイス: 「D0」「D1」「D2」・・・「D19」
というように、デバイスが異なる20個の数値入力を配置します。

(オプションタブ)

「オプション」にチェックし、下記のように設定します。



「オフセット」にチェックをし、各ページの先頭デバイスNo.を格納するデバイスを入力します。

【ポイント】

各数値入力(先頭から順に、D0,D1D2,...)を「各ページ先頭デバイス」でオフセットすることにより、ページ先頭デバイスから順に20デバイスを表示します。



5. カスタマイズ時の設定方法

ここでは、本サンプル画面において、下記に示すカスタマイズ・変更を行う場合の手順を記載します。

1. モニタするデバイスの範囲を広げたい場合
2. モニタするデバイスを変更したい場合
3. デバイスNo.表示の10進/16進を切り換えたい場合
4. 1ページ内に表示するデバイス数を変更したい場合
5. 任意のページにジャンプする画面切り換えスイッチを設置したい場合
6. 異なるデバイスの画面を、新規に追加したい場合

詳しい設定方法を次ページより記載します。



1. モニタするデバイスの範囲を広げたい場合

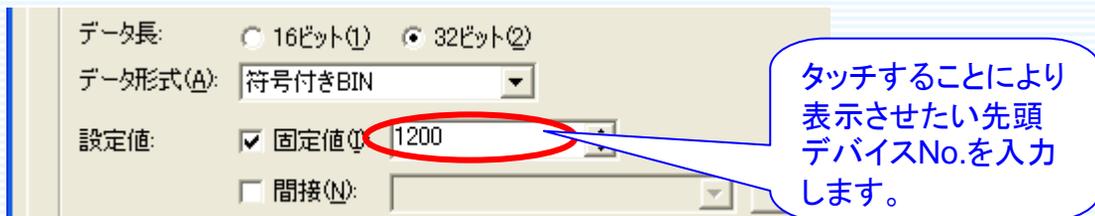
- ① デバイスNo.切り換えボタン(ページ先頭デバイス指定)を追加します。



デバイス範囲を広げることで必要となる「デバイスNo.切り換えボタン」を作成します。

※作成方法については、「4.作画設定方法 4.1.③」を参照して下さい。

各々のスイッチの(基本)タブの「動作設定-固定値」の値を設定します。



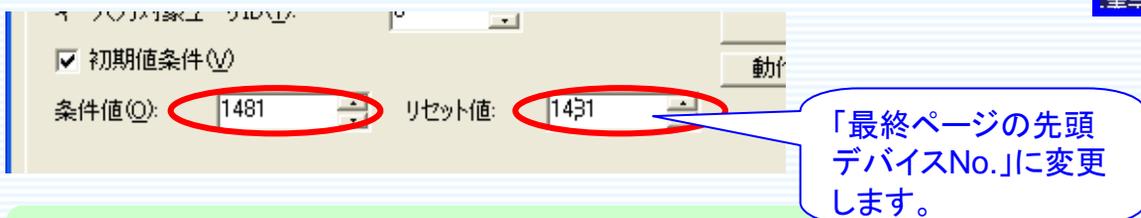
※D0000～D1500に範囲を広げる場合…

「D1000～D1019」、「D1200～D1219」、「D1400～D1419」、「～D1500」のスイッチを増やします。

それぞれ、固定値を「1000」、「1200」、「1400」、「1481」と設定します。

- ② デバイスNo.切り換えボタン(次スクロール)のデバイス範囲を変更します。

『次ページ』スイッチの「動作設定」タブを開き、下記のように設定します。



※D0000～D1500に範囲を広げる場合…

最終ページが、「D1481～D1500」となるため、「1481」を入力します。

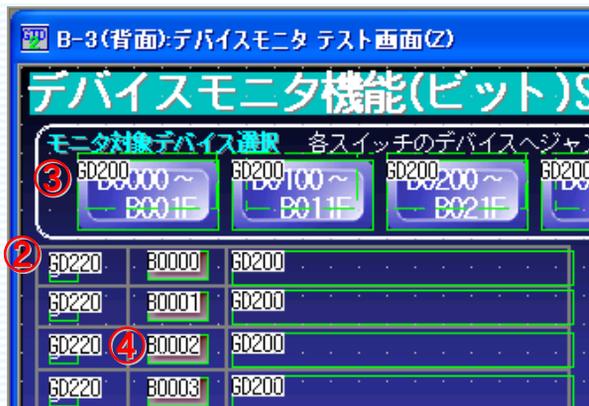
- ③ 追加したデバイスのデバイスコメントを設定します。

※設定方法は、「4.作画設定方法 4.1.②」を参照して下さい。

※D0000～D1500に範囲を広げる場合…

追加する「D1001～D1500」のコメントを、コメントグループ「コメントNo.=1002」以降に追加します。

2. モニタするデバイスを変更したい場合

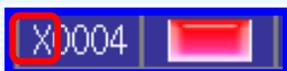


- ① デバイス名をコメントグループに追加します。
※詳細は、「4. 作画設定方法 4. 1. ①」を参照して下さい。

※Bデバイスに変更する場合・・・
デバイス名のコメントグループに“B”を追加します。
(サンプルの場合、コメントグループNo.1「デバイス名」に追加します。)

列No.	コメントNo.	文字色
	1	
	1 X	
	2 D	
	3 B	

- ② デバイス名表示用コメント(ベース画面)の変更をします。(1ページ表示数分)



コメント表示の(表示コメント)タブの「属性-コメントNo.」を①で追加したコメントNo.に変更します。 ※詳細は、「4. 作画設定方法 4. 1. ⑤-2.」を参照して下さい。

属性(通常時)

間接(デバイス値)Ⓚ

無処理(D)

コメントNo.(M): 3 B

コメント属性を変更(N)

③画面切り換えスイッチ(先頭デバイス指定)の表示文字を変更します。



画面切り換えスイッチの(文字)タブの「文字」を変更します。



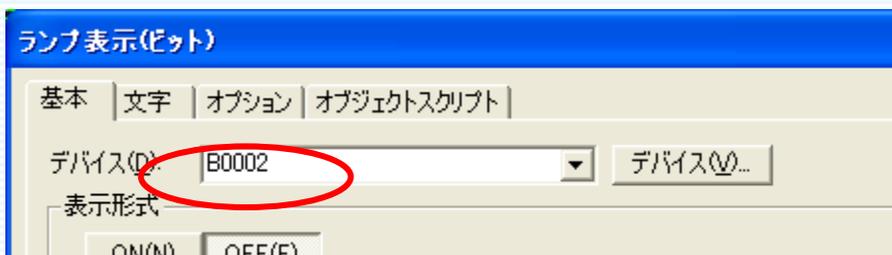
※Bデバイスに変更する場合・・・
「文字」を「B000」に変更します。

④ランプ表示の「デバイス」を変更します。

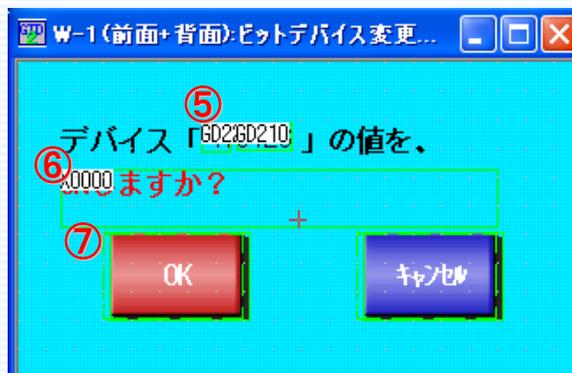


ランプ表示の(基本)タブで、「デバイス」を表示対象デバイス名に変更します。(1ページの表示デバイス数分)その際、デバイス名部分のみ変更します。

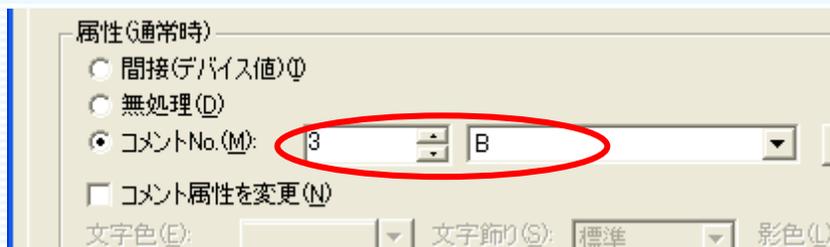
※詳細は、「[4.作画設定方法](#) 4.2.⑦a)を参照して下さい。



※Bデバイスに変更する場合・・・
「デバイス」の値を
“X0000”、“X0001”、“X0002” ⇒ “B0000”、“B0001”、“B0002”
に変更します。



- ⑤確認画面ウィンドウのデバイス名表示コメント(上図⑤)を変更します。
コメント表示の(表示コメント)タブの「属性-コメントNo.」を①で追加したコメントNo.に変更します。
※詳細は、「4.作画設定方法 4.2.⑧a.」を参照して下さい。



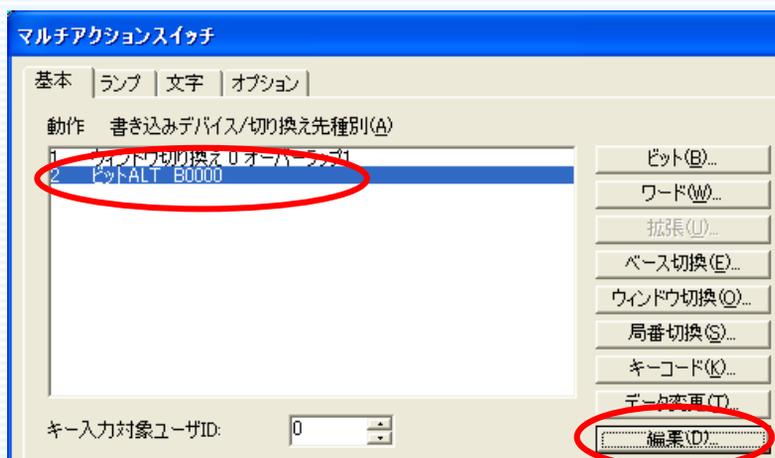
- ⑥確認画面ウィンドウの確認メッセージ表示コメント(上図⑥)を変更します。
コメント表示の(基本)タブの「デバイス」を表示先頭デバイスに変更します。
※詳細は、「4.作画設定方法 4.2.⑧a.」を参照して下さい。



※Bデバイスに変更する場合・・・
「デバイス」を「B0000」に変更します。

- ⑦確認画面ウィンドウの「OK」ボタン(前ページ図⑦)を変更します。
マルチアクションスイッチの(基本)タブで、ビットALTの対象デバイスを変更します。

「ビットALT…」行を選択して、「編集」ボタンを押下し、対象先頭デバイスを変更します。
※詳細は、「[4. 作画設定方法 4. 2. ⑧a.](#)」を参照して下さい。



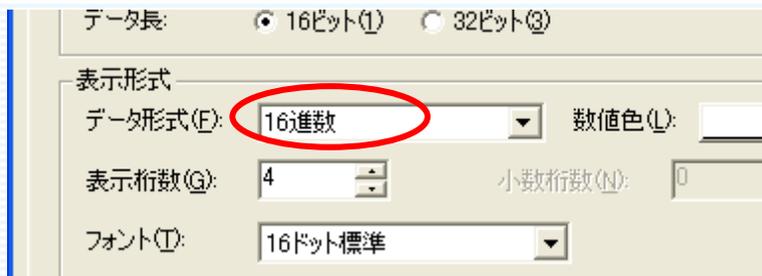
※Bデバイスに変更する場合・・・
「デバイス」を「B0000」に変更します。

3. デバイスNo.表示の10進/16進を切り換えたい場合

- ①デバイスNo.表示用コメントの(基本)タブ「表示形式」を変更します。



※詳細は、「[4. 作画設定方法 4. 1. ⑤-3](#)」を参照して下さい。

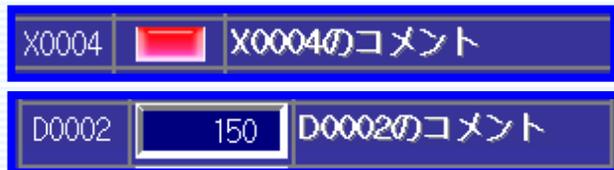


4. 1ページ内に表示するデバイス数を変更したい場合

①オブジェクトを削除または追加します。

- ・デバイスNo.表示用コメント
- ・ビットデバイスのランプ表示
- ・ビットデバイス変更用のマルチアクションスイッチ
- ・ワードデバイスの数値入力
- ・デバイス毎のコメント表示

以上を1ページに表示させたい数だけ配置します。



※設定方法は、『4.作画設定方法「4. 1. ⑤⑥」「4. 2. ⑦a.⑨a.」「4. 3. ⑦b.」を参照して下さい。

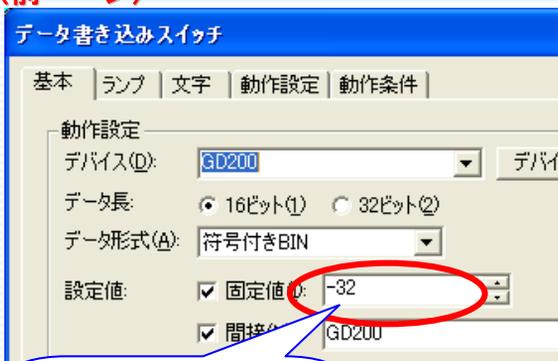
②画面切り換えボタン(スクロール)のスクロール数を変更します。



「前ページ」「次ページ」のデータ書き込みスイッチの(基本)タブの「動作設定—設定値」を1ページに表示させたい数に合わせて変更します。

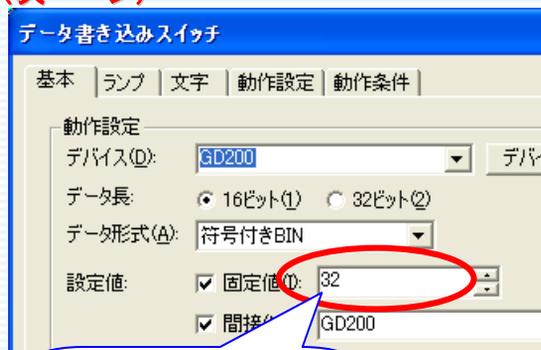
※詳細は、『4.作画設定方法 4. 1. ④』を参照して下さい。

(前ページ)



1ページに表示させたい数に変更します。

(次ページ)

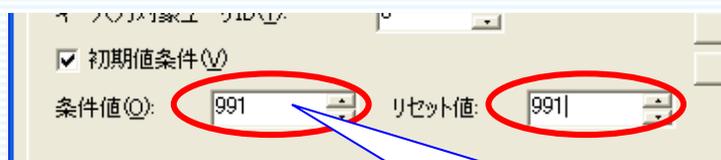


1ページに表示させたい数に変更します。

③画面切り換えボタン(次スクロール)の動作設定を変更します。



1ページに表示させたいデバイス数に応じて、「初期値条件」を変更します。
※詳細は、「4.作画設定方法 4.1.④」を参照して下さい。



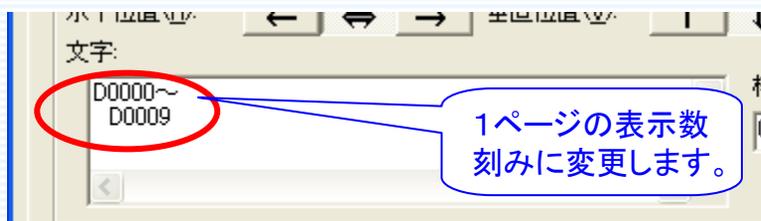
最終ページの先頭デバイスNo.を入力します。

※「D0000～D1000」の範囲で、1ページ10デバイスとしたい場合…
最終ページが、「D991～D1000」の10デバイスとなるため、
「条件値」「リセット値」に「D991」を入力します。

④画面切り換えスイッチ(先頭デバイス指定)の表示文字を変更します。



画面切り換えスイッチの(文字)タブの「文字」を変更します。
※詳細は、「4.作画設定方法 4.1.③-2」を参照して下さい。



※1ページ10デバイスとしたい場合…
表示を10デバイス刻みに変更します。
「D0000～D0009」、「D0010～D0019」、「D0020～D0029」…と入力します。

5. 任意のページにジャンプする画面切り換えスイッチを設置したい場合

① デバイスNo.切り換えボタン(ページ先頭デバイス指定)を追加します。



デバイス範囲を広げることで必要となる「デバイスNo.切り換えボタン」を作成します。
※作成方法については、「[4.作画設定方法 4. 1. ③](#)」を参照して下さい。

各々のスイッチの(基本)タブの「動作設定—固定値」の値を設定します。

データ長: 16ビット(Q) 32ビット(Q)

データ形式(A): 符号付きBIN

設定値: 固定値(Q) 1200 間接(N):

当該ページで表示させたい先頭デバイスNo.を入力します。

【注意事項】

設定した先頭デバイスに応じて決まるページ最終デバイスが、モニタ対象デバイス範囲を超えることのないよう注意すること！



6. 異なるデバイスの画面を、新規に追加したい場合

『3. デバイスマニタ画面作画の手順』に従い、画面を新規作成します。
 その際、追加するデバイスに対応した値を設定します。
 以下に、『3. デバイスマニタ画面作画の手順』の手順と異なる点を記載します。

①対象デバイス名をコメントグループに登録

⇒追加デバイス名を既存のデバイス名コメントグループに追加します。

※「M0000～M1999」、1ページ10デバイスの画面を追加したい場合…
 既存のデバイス名コメントグループに、「コメントNo.3=“M”」を追加します。

②デバイスコメントをコメントグループに登録

⇒新たなコメントグループを作成し、追加デバイスのデバイスコメントを記入します。

※「M0000～M1999」、1ページ10デバイスの画面を追加したい場合…
 コメントグループを新規作成し(コメントグループNo.=3)に、「M0000～M1999」
 のデバイスコメント2000件を登録します。

③デバイスNo.切り換えスイッチ(ページ先頭デバイス指定)を設定

⇒設置したい内容・数のスイッチを作成し、スイッチに表示させる文字に、追加デバイスに対応した値を設定します。

※「M0000～M1999」、500点刻みのスイッチを設置したい場合…
 設定値が、「0,500,1000,1500,1990(最終ページ先頭No.)」の合計5個のスイッチを設置します。

④デバイスNo.切り換えスイッチ(個別スクロール)を設定

⇒1ページに表示させるデバイス点数により、固定値を設定します。

※「M0000～M1999」、1ページ10デバイスの画面を追加したい場合…
 (基本タブ)の「設定値-固定値」の値を、「前ページ」スイッチ⇒“-10”、「次ページ」スイッチ⇒“+10”に設定します。

⑤デバイス名、デバイスNo.を設定

⇒デバイス名:表示コメントの「コメントNo.」に、①で追加したコメントNo.を設定します。

※「M0000～M1999」、1ページ10デバイスの画面を追加したい場合…
 (表示コメントタブ)の「コメントNo.」に、①で追加した“3”を設定したコメント表示を10個設置します。



⑥ デバイスコメントの設定

⇒コメント表示の(表示コメントタブ)の「コメントグループ」に、②で作成したコメントグループNo.を設定します。

※「M0000～M1999」、1ページ10デバイスの画面を追加したい場合・・・
(表示コメントタブ)の「コメントグループ-固定値」に、②で作成した「コメントグループNo.=3」を設定したコメント表示を10個設置します。

⑦a. ビットランプの設定

⇒(基本タブ)の「デバイス値」に、追加デバイスを設定します。

※「M0000～M1999」、1ページ10デバイスの画面を追加したい場合・・・
(基本タブ)の「デバイス値」が、「M0000、M0001、M0002、・・・、M0009」である合計10個のビットランプを設置します。

⑧a. 変更確認ウィンドウの作成

⇒コメント表示(デバイス名表示用): コメントNo.に①で追加したコメントNo.を設定します。
⇒コメント表示(確認メッセージ用): デバイス値に、先頭の追加デバイスを設定します。
⇒マルチアクションスイッチ:(ウィンドウ切り換え)作成したウィンドウNo.を設定します。
(ビットALT)先頭の追加デバイスを設定します。

※「M0000～M1999」の画面を追加したい場合・・・

- ・コメント表示(デバイス名表示用) : ①で追加した「コメントNo.=3」
- ・コメント表示(確認メッセージ用) : 「デバイス値=M0000」
- ・マルチアクションスイッチ : (ウィンドウ切り換え)作成したウィンドウNo.
(ビットALT)「デバイス値=M0000」
以上を設定します。

⑨a. マルチアクションスイッチの設定

⇒⑧a.で作成したウィンドウNo.を設定します。

※「M0000～M1999」の画面を追加したい場合・・・
ウィンドウ切り換えの「切り換え先(固定値)」に作成したウィンドウNo.を設定します。

⑦b. 数値入力の設定

⇒デバイス値を追加デバイスに設定した数値入力を、1ページ表示数分作成します。